

60歳の青春 18切符旅行記

私の鉄道好きはいつ頃から始まったのだろうか。多分、九州の実家のすぐ裏に国鉄（現JR）日豊本線が走っていたことが影響していたと思われる。小学生時代は汽車が通過する時刻が近づくと、同級生らと一緒にになってレールに耳をあてて（夏は熱くてやれないが）、機関車の車輪の響きが段々と大きくなるのを聞くのが楽しみであり、また一種の度胸試しだったかもしれない。今だったら、大目玉をくろうような遊びだったかもしれない。学生時代を東京で過ごした私は、九州に帰省するときは夜行急行（高千穂とか豊後など）を利用していたが、まだ九州まで全線電化でなかったため、途中で蒸気機関車が牽引するため、九州の玄関口門司駅に着いたころは、石炭のススで顔中が真っ黒になったことは何回もある。今でも、門司駅のホームには鏡台のついた洗面場所が残っているが、それを見るにつけ学生時代に列車で帰省したことを思い出してならない。

家裁調査官は全国異動を余儀なくされる職種であるが、鉄道好きな私にとって転勤は、まだ乗車していない鉄道路線に乗れるという楽しみに通じている。

平成15年3月に定年退職後は、JR全路線乗車を目指して頑張っているところである。全路線乗車に欠かせない切符が、年3回（春・夏・冬）発売される「青春18切符」である。この切符がいつ頃から発売されたか正確にわからないが、平成の初め、東京家裁に勤務していたときに、東京少年友の会の学生会員と房総の海に日帰り旅行をしたときに使った記憶はある。退職後は、この切符を利用して、まだ未乗車の鉄道路線に次々と乗車させてもらった。九州、四国、中国地方は全線乗車した。近畿地方も大阪都市近郊の一部路線を除いて乗車している。昨年4月に金沢家裁に勤務し始めてからは、七尾線、氷見線、城端線、越美北線（九頭竜線）、大糸線、信越線、越後線を乗車したので、北陸・越後地方も弥彦線など一部を除いて乗車したことになる。

H19.7.28に金沢駅から大網駅（外房線）まで、青春18切符を利用して帰省したので、その乗車記録を参考に紹介します。

金沢駅（出発）05:31 発 富山駅 06:28 着 06:31 発 糸魚川駅 07:51 着 08:15 発（大糸線全線開通50周年記念大糸線乗車記念証明書を車内でもらう）南小谷駅 09:17 着 09:34 発（途中信濃大町駅で特急列車通過待ちで3分停車）松本駅 11:34 着 11:47 発（途中茅野駅で特急列車通過待ちで6分停車）韮崎駅 13:43 着 14:05 発 大月駅 16:14 着 16:43 発（臨時快速河口湖4号武蔵野線経由大宮行き）大宮駅着 17:30 着 17:39 発（快速アーバン・グリーン車利用）上野駅 18:02 着 東京駅 19:05 発（快速・グリーン車利用）大網駅（到着）20:10 着

朝5時台に出発して到着は夜20時台であるから、約15時間余りの列車の旅である。これを長いのか短いかと問われることは、鉄道好きな私にとっては野暮な問と答えるしかない。せちがらい世の中だからこそ、ゆったりとした時間を列車という一つの空間の中で過ごせることは、贅沢なことだと思うのだが、みなさんはどう思いますか。

家裁調査官室 Y・K